

「第二宣教旅行に出発する」

2016年07月02日

使徒言行録 15章 36節～41節。数日の後、パウロはバルナバに言った。「さあ、前に主の言葉を宣べ伝えたすべての町へもう一度行って兄弟たちを訪問し、どのようにしているかを見て来ようではないか。」バルナバは、マルコと呼ばれるヨハネも連れて行きたいと思った。しかしパウロは、前にパンフィリア州で自分たちから離れ、宣教と一緒に行かなかったような者は、連れて行くべきでないと考えた。そこで、意見が激しく衝突し、彼らはついに別行動をとるようになって、バルナバはマルコを連れてキプロス島へ向かって船出したが、一方、パウロはシラスを選び、兄弟たちから主の恵みにゆだねられて、出発した。そして、シリア州やキリキア州を回って教会を力づけた。

「数日の後」と書かれている。エルサレムの使徒会議の決議をアンティオキア教会で報告された日から数日後ということであろうか。決議報告はアンティオキア教会の異邦人クリスチャンたちに大きな喜びをもたらした。その喜びを反映したのでであろうか、パウロは「さあ、前に主の言葉を宣べ伝えたすべての町へもう一度行って兄弟たちを訪問し、どのようにしているかを見て来ようではないか」と、バルナバを第二宣教旅行に誘っている。第一宣教旅行はバルナバがパウロを誘っていたが、今回はパウロがバルナバを誘っている。パウロの力量が増したことの証であろう。

バルナバは同意した。彼は助手として、マルコと呼ばれるヨハネを同行させたいと提案した。しかし、パウロは猛反発をした。第一宣教旅行にマルコ・ヨハネは同行したが、パンフィリア州で、宣教団から離れ、エルサレムに帰ってしまった。宣教の厳しさについて行けないような者は同行させるべきではないと考えたからである。バルナバは「慰めの子」と言われたほど温和な性格だったので、マルコを同行させて信仰的な成長を期待したのではないだろうか。一方のパウロは、母親のいるエルサレムに帰るような軟弱な彼を許せなかった。バルナバとパウロは激しく衝突し、互いに譲らなかった。そこで、バルナバはマルコを連れて再度、故郷キプロス島の宣教に向かって船出した。パウロはエルサレム教会から派遣されたシラスを選び、第一宣教旅行に行ったシリア州やキリキア州に向かった。彼らの目的は、第一宣教旅行で、主イエスを信じた人々の、その後を知りたいという問安であった。アンティオキア教会の祈りを受け、主の恵みに委ねて、出発した。バルナバとマルコの宣教は使徒言行録には記されていない。パウロとシラスの宣教に焦点を置き、第二宣教旅行からは、パウロたちの宣教が主眼になっている。

パウロはなぜ、このように宣教へと押し出されていったのか。復活の主イエスに出会い、敵をも赦す福音を知らされ、主イエスの福音宣教者として立ててくださる神の恵みに応えたいという一心であったことは疑い得ない。それと同時に、使徒会議での決議がパウロを強く動かしたことも確かであろう。ガラテヤ書 2章 6節b～8節に下記のように書いている。「神は人を分け隔てなさいません。— 実際、そのおもだった人たちは、わたしにどんな義務も負わせませんでした。それどころか、彼らは、ペトロには割礼を受けた人々に対する福音が任されたように、わたしには割礼を受けていない人々に対する福音が任されていることを知りました。割礼を受けた人々に対する使徒としての任務のためにペトロに働きかけた方は、異邦人に対する使徒としての任務のためにわたしにも働きかけられたのです。」パウロは異邦人宣教を使命とし、この使命に駆り立てられている。